

令和5年度 第3回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和5年11月22日 開催

豊橋市教育委員会

第3回 総合教育会議				
日時	令和5年11月22日(水) 午後2時00分～3時00分			
場所	市役所東館4階 政策会議室			
構成員	浅井 由崇	市長	山西 正泰	教育長
	西島 豊	教育委員	渡辺 嘉郎	教育委員
	内浦 有美	教育委員	中島 美奈子	教育委員
事務局	朽名 栄治	財務部長	種井 直樹	教育部長
	浅倉 淳志	教育政策課長	伴 健太郎	財政課長
	鈴木 秀典	学校教育課長	鈴木 常浩	教育会館長
	ほか	6名		
その他	傍聴人 4名			

議事日程

協議事項

- 1 エールームの成果と課題、今後の方向性について

その他

- 1 今後の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和6年2月21日(水) 15:00～

(教育部長)

ただいまから、令和5年度第3回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の協議事項は、「エールームの成果と課題、今後の方向性について」でございます。それでは、資料1を事務局から説明してください。

協議事項

1 エールームの成果と課題、今後の方向性について

■学校教育課指導主事 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、これらの説明に対する皆さまのご意見などをお聞かせいただければと思います。

(渡辺委員)

エールームの成果と課題について説明いただきましたが、南部中学校と青陵中学校で実施した結果、子どもたちが少しでも学校に登校できているということは良いことだと思います。現在は2校での実施ということですが、より多くの不登校の子どもたちを救えるように、人員を拡大して多くの学校にエールームを設置していただきたいと思います。

一つ伺いますが、資料3ページの「気になる欠席」とはどのような欠席のことでしょうか。

(指導主事)

市教委では3日連続での欠席を一つの目安としていますが、普段休まない子どもの欠席や休み明けの欠席がよくある子どもについては、欠席日数の多寡に関わらず、「気になる欠席」と考えています。

(渡辺委員)

初期対応が非常に大事だと考えますので、「気になる欠席」がある子どもたちへの対応をしっかりと行っていただきたいと思います。それから、保護者に対してはどのような対応を行っているのでしょうか。

(指導主事)

担任と保護者の間で、学校での様子や家庭での様子を共有し、スクールカウンセラーとの連携に繋げております。

(中島委員)

不登校の子どもたちの中には、勉強をしたいけれども教室には入れない子や、勉強への意欲は低いけれどもその必要性は理解している子がいます。そのような子が自分のペースでエールームを利用できることは良いことだと思います。

(西島委員)

資料にもありましたが、「甘え」や「わがまま」ではないと先生方が理解して子どもたちを指導している点は素晴らしいと思います。また、生徒が自主的にエールームで勉強し

て、もう一度クラスに戻ることができたという結果がでていることも素晴らしいことだと思います。先生方が大変努力をしておられるのだろうと思います。

エールームを利用する子どもたちが学校内を行き来する時の、他の子どもたちの受け止め方が肯定的になれば良いと思います。

一つ伺いますが、小学生を受け入れているエールームはありますか。

(指導主事)

現在開設している2校のうち、南部中学校で4、5例あります。体験利用もありますが、継続利用には繋がっていないようです。

(内浦委員)

エールームの取り組みについては私も賛成でして、人員の増強等の拡大を進めていただきたいと思います。一つ伺いますが、今後、不登校児童生徒は増加していく見込みなのでしょうか。

(指導主事)

豊橋市の不登校児童生徒数は、現在1,000人ほどおりますが、今後も増加すると思います。学校に行きづらさを感じている子どもだけではなく、学校に対する価値観の多様化から、「学校がすべてではない」という考え方の子どもたちが増えてくると思います。

(教育長)

6年前と比較して、豊橋市の不登校児童数は小学校が約3倍、中学校が約2倍になっています。中学校の1クラスに2人から3人が学校への行きづらさを感じているという状況は、異常だという認識を我々も持たないといけないと感じています。

エールームは、他市の同様の取り組みを視察して、やはりこのような環境が必要だということで立ち上げました。現在は多様性を認める時代ですが、高校進学でも通信制を選択して自分のペースで学習したい、一律の教育を望まないという子どもが増えているそうです。個別最適な学びの観点からみても、そういった子どもたちの学習環境を保障する必要がありますので、エールームの役割が重要になってくると考えています。

それから、豊橋には市立の高等学校があります。中学校時代に不登校であった子どもが皆勤で卒業しているという事例がいくつもあります。同じ境遇にあった子どもたちが多数在籍していること、高校の教職員が目線を合わせて関わっていること、単位制を採用しているため、子どもたちが自分のペースで学びを進めることができるという3点が作用していると思いますので、このような良さをエールームに取り入れていければ、学校に再び行ける子や社会的に自立した子が増えていくのではと思います。

(教育会館長)

エールームに対して、教職員がその必要性を理解することが大事になってきます。導入した2校も、現在は教職員がその重要性を理解しておりますが、当初は、「学校内に自由に過ごせる空間があって良いのか」という意見もありました。

エールームを拡大するにあたっては、教職員にその重要性を体験的に理解してもらう必要があると考えています。

(浅井市長)

昔は学校を欠席することに対して否定的な考え方でしたが、保護者も含めて我々も頭

を柔らかくする必要があると思います。豊橋の子どもたちが、多様な環境の中、それぞれのスピードで学ぶための環境として、エールームの設置は意味のあることだと思います。

(中島委員)

勘違いしてはいけないのは、エールームに行く子はこういった子というものではなく、それぞれの子どもが、それぞれの場所でスタートを切れるという考え方をしなければいけないと思います。

(教育長)

加えて、自分のペースで学ぶことを認めつつも、社会的な礼儀作法も身に付けられるようにしていく必要があると思います。

(西島委員)

ふれあいフレンドの配置とありますが、この方々は教員資格がなくてもよいのでしょうか。

(指導主事)

ふれあいフレンドについては、教員免許の有無は問いません。

(渡辺委員)

エールームの受け入れ体制を充実させるにあたっては、支援員の方々の力をつけながら増やしていく必要がありますので、急いで拡大することは難しいと思いますが、不登校児童生徒が1,000人もいるわけですから、拡大はしていただきたいと思います。

(教育部長)

今おっしゃられたように、一度に拡大することは難しいですが、最終的には市内すべての中学校への導入に向けて順次拡大してまいりたいと思っております。

(教育長)

エールームが起爆剤となって、「教室で学ばなければならない」という意識が変わっていけばよいと思います。

(教育部長)

それでは、本日の会議の総括を市長にお願いしたいと思います。

(浅井市長)

本日は、「エールームの成果と課題、今後の方向性について」を協議させていただきましたが、忌憚のない意見がでてきて、大変有意義な意見交換ができたのではないかと思います。

不登校児童生徒の対応については、我々も昔の考え方のままではいけない部分があると思います。エールームを導入した学校では一定の成果も出ており、有効な手法だと思えますので、本日頂いたご意見を参考にしていきたいと思っております。

連絡事項

- ・ 次回開催日程 令和6年2月21日(水) 15:00～

(教育部長)

以上で、令和5年度第3回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。